

市政に臨む基本方針

令和4年（2022年）9月



苫小牧市長
岩倉博文

はじめに

生まれ育ったふるさと苦小牧の更なる発展を目指し、平成18年の市長就任から様々な問題提起を行い、解決に向けた施策に取り組んでまいりました。

その中でも、最重点課題として掲げた財政の健全化につきましては、これまで16年間に渡り、民間活力の活用をはじめとした行政改革に取り組んだ結果、一時期の危機的な状況から健全性が確保される状態にまで、改善しているところです。

今後は、生産年齢人口の減少に伴う税収減が予測され、時代の変化を捉えた持続可能な行財政運営が求められます。5期目におきましては、行政改革の継続はもとより、税外収入の積極的な確保や新たな財政運営計画を策定するなど、財政秩序を守りつつ、財政基盤の更なる強化を図ってまいります。

市民の皆様には長い間ご心配をおかけしております旧サンプラザビルを含む苦小牧駅前再開発の問題につきましては、1日も早い解決に向けて全力で取り組み、苦小牧駅を中心としたまちなかの再生に道筋をつけてまいります。

また、地球温暖化に起因する気候変動や自然災害への対応としてのゼロカーボンシティの実現、パートナーシップ制度の導入など、社会情勢の変化に対応した施策を展開してまいります。

新型コロナウイルス感染症対策につきましては、“感染拡大防止”、“地域経済対策”、“市民の健やかな日常”を重点軸として各種施策を行ってまいりました。引き続き、この3つの重点軸のもと、感染状況に応じたスピード感のある取組により、市民生活に支障が生じないよう、最優先で取り組んでまいります。

私にとって、5期目は集大成であり、最後のチャレンジとなります。“信頼獲得”、“チーム一丸”、“挑戦する市政”、“市民のための市役所づくり”、“誠心誠意を持って市民と企業市民に接する”以上5つの基本スピリットのもと、市政の舵取りに挑んでまいります。

本市が20年先も発展を続け、市民の皆様が安心して日常生活を送ることができるよう、各種施策を推進してまいります。

基本政策

I 行革を進め、無駄のない 効率的な都市機能をもつまち苦小牧 築きます！

<時代の変化を捉え、持続可能な行財政運営を行います>

現行の行政創革プランの取組を強化し、各種業務の民間委託を着実に実施するとともに、SDGsなどの時代の変化を踏まえた新たなプランを策定し、持続可能な行財政運営を目指してまいります。

また、ふるさと納税の拡大やネーミングライツ等、税外収入の確保に向けて積極的に取り組むとともに、今後の財政収支の見通しを立て、新たな財政運営計画を策定し、更なる財政の健全性を確保してまいります。

<迅速に対応する柔軟な組織編成に取り組みます>

兼務兼職の発令など、柔軟な組織体制を整備するとともに、専門的な知識や経験を有する民間人材の登用、女性管理職の割合の引き上げなどにより、高度化・複雑化する行政課題に対応してまいります。

また、まちづくり関連の計画においては、組織横断チームを構築し、まちづくりを効率的に推進してまいります。

<デジタル技術を活用し、市民の利便性向上を図ります>

「スマートシティ構想」を策定し、デジタル技術の活用により地域課題を解決するとともに、スマートフォンやマイナンバーカードを活用した行政サービスの拡大を図ってまいります。

また、地域BWA^{※1}の利活用を促進し、高速ブロードバンド未整備地区の解消や、単身高齢者見守りサービスの導入を進めるなど、市民の利便性向上を図ってまいります。

<民間活力導入や広域連携を進めます>

JFEリサイクルプラザへの指定管理者制度の導入を図り、民間のノウハウを活かした施策を展開し、市民サービスの向上を目指してまいります。

※1 Broadband Wireless Access の略で、2.5GHz 帯の電波を使用し、地域の公共・福祉増進等に寄与することを目的とした電気通信業務用の無線システムのこと

また、浄水場の運転管理業務につきましては、民間活力の活用等により、効率化を目指してまいります。

さらに、下水汚泥・し尿処理や消防指令業務、外国人相談窓口などの広域化・共同化について、近隣自治体と協議を進め、施設更新費用の抑制や業務の効率化を図ってまいります。

＜公有財産の有効活用に取り組みます＞

本庁舎12階に来庁者向けのスペースを整備するとともに、庁舎内一部の休日開放や学校の空き教室の利用など、地域ニーズを踏まえた公有財産の有効活用に取り組んでまいります。

また、「苫小牧市公共施設適正配置基本計画」について、財政状況や将来人口を踏まえた見直しを行うほか、「苫小牧市営住宅整備計画」に基づき、管理戸数の適正化を図ってまいります。

さらに、高丘霊葬場の火葬炉を増設するほか、動物火葬場の廃止、第二共同墓の建設について調査を進め、少子高齢化・人口減少社会に対応した施設管理に取り組んでまいります。

II 産業流通の活性化、働く人の明るい 笑顔あふれるまち苫小牧 導きます！

＜産業が集積する利点をいかし、人や投資を呼び込みます＞

旧サンプラザビルの対応につきましては、地権者の理解を得ながら解決に向けて取り組んでまいります。

また、eスポーツ振興などの若者が集う機会の創出や、苫小牧駅南北を結ぶ連絡通路の有効活用など、多様な視点で検討する中で新たに「駅周辺ビジョン」を策定し、まちなかの価値の向上に取り組んでまいります。

さらに、ワーケーションなどを通じて本市を訪れた企業のニーズ把握に努め、サテライトオフィスの誘致など、時代の変化に応じた企業誘致活動を行うとともに、立地企業への支援や雇用対策事業を推進し、求職者と企業のマッチングや市内企業の働きやすい職場づくりを支援してまいります。

＜20年先を見据えたまちづくりに取り組みます＞

統合型リゾート（IR）につきましては、北海道のコンセプト構築に協力し、引き続き誘致にチャレンジしてまいります。

また、公共交通の課題解決に向けたとまこまい版MaaS^{※2}の構築や、地元の魅力発信につながるキッチンカーフェスティバルなどを実施し、「苫小牧都市再生コンセプトプラン」の具現化に取り組んでまいります。

さらに、体験型観光の情報発信を強化し、道内外からの旅行者や教育旅行の誘致促進を図るとともに、キャッシュレス化などの推進により、市内商店街のにぎわいを創出するほか、来訪を伴うふるさと納税返礼品を拡大するなど、コロナ禍で落ち込んだ市内経済の再生を図ってまいります。

＜人流の活性化と物流機能の強化を図ります＞

新千歳空港の利用促進につながる事業を実施し、北海道エアポート株式会社を支援するとともに、航空機とフェリーを活用した新たな観光需要の掘り起こしや、市街地へのアクセス強化に取り組み、人流の活性化を図ってまいります。

また、温度管理型冷凍冷蔵庫を核としたロジスティクス機能の強化や、小口混載コンテナ輸送の支援を行い、農水産物の輸出拡大を図ってまいります。

さらに、ポートセールスを実施するほか、寄港時の経費を一部支援するなど、東南アジア新規航路開設を目指してまいります。

＜とまこまいの魅力を向上し、地元愛を育てます＞

アイスホッケータウンとしてレッドイーグルス北海道と連携し、その振興に努めるとともに、苫小牧中央インターチェンジを活用した誘客促進や、漁業者と連携した海産物の消費拡大など、本市の魅力発信を強化してまいります。

また、キラキラ公園やフェリーターミナルを活用したイベントを実施するほか、ぷらっとみなと市場の誘客拡大により、みなとエリアのにぎわいを創出してまいります。

※2 Mobility as a Service の略で、自動運転やAIなどのテクノロジーを掛け合わせた、次世代の交通サービスのこと

＜誰もが働きやすい環境づくりの取組を強化します＞

介護職員養成機関を設置する事業者への支援や、介護職員育成支援を拡充し、介護・福祉人材の確保、離職防止を図るほか、市内企業への就職者を対象に奨学金の返還を支援する仕組みを構築し、人材流出の抑制に努めてまいります。

また、消防団員の平均年齢引き下げや、女性消防職員の比率向上に取り組むほか、市が主催する審議会等における若年層委員の増加を進め、女性や若者の社会参加の拡大を図り、多様化する社会の変化に対応してまいります。

Ⅲ お年寄りや子どもたちが安心して暮らせるまち苦小牧 育てます！

＜誰もが心豊かに暮らせるまちを目指します＞

「苦小牧市健康増進計画」を改定し、市民一人ひとりが意識的に健康づくりに取り組むことができる環境を整備してまいります。

また、地域共生社会の実現を目指して重層的支援体制整備事業を実施し、地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応してまいります。

さらに、福祉現場における介護ロボットやICTの活用を進める講習会を実施するほか、介護福祉士・介護支援専門員の再就職に対する支援や、成年後見制度に係る法人後見受任団体への補助など、福祉サービス提供に向けた取組を強化してまいります。

＜多様な主体が交流・共生するまちづくりを進めます＞

地域包括ケアシステムの深化に向け、関係機関との連携を深め各種事業を強化するとともに、福祉拠点整備に向けたビジョンを整理することで、あらゆる世代と交流し、ともに支え合える地域づくりを推進してまいります。

また、社会福祉協議会と連携してボランティアセンター機能の充実を図るとともに、スマートフォン講座やオンライン研修など、時代の要請を踏まえた事業を実施し、地域の課題解決に向けた支援を行ってまいります。

＜子育て世代の応援と健全育成に取り組みます＞

コウノトリ検査事業の助成を拡充し、不妊原因の早期発見を促すとともに、保育所や幼稚園の副食費の免除対象の拡大や、保育園における特別保育事業の充実により、子育ての負担軽減を図ってまいります。

また、高校中退者等の支援ニーズを把握し、居場所づくりや仲間づくりに取り組むとともに、過度なケア負担を抱えているヤングケアラーや、医療的ケア児へのサポートを継続して実施し、子どもや若者が安心して充実した生活を送ることができるよう支援に努めてまいります。

＜安心で快適な都市環境の整備に取り組みます＞

市立病院内のWi-Fi利用エリアの拡大及び病室のユニット化を進め、快適な入院生活の確保に努めるとともに、周産期医療体制の充実を図り、地元で安心して出産し、育児ができる環境づくりを推進してまいります。

また、公園につきましては、“ボール遊びができる公園”など、わかりやすい周知に努めるとともに、ウトナイ地区に広く市民が利用できる“勇の原公園”を整備するほか、インクルーシブ遊具^{※3}を設置し、障がいの有無に関わらず誰もが遊べる公園づくりに取り組んでまいります。

＜市民の生命・財産・安全を守る施策に取り組みます＞

津波ハザードマップの改定や避難ビルの指定促進など、新たな津波浸水想定に対応した避難体制を整備するとともに、最新の情報に基づき「苫小牧市地域防災計画」を改定し、市民の安全確保に努めてまいります。

また、空き家及び空き地につきましては、管理を一元化して効率化を図り、迅速な対応に努めてまいります。

さらに、がん検診の受診率向上や喫煙率の減少に取り組むとともに、東部地区においても“すこやかロード”の認定を受ける散策ルートを設定するなど、市民の健康増進に向けた環境を整備し、健康寿命北海道ナンバー1の都市を目指してまいります。

※3 体の障がいの有無に関わらず、一緒になって遊ぶことができる遊具のこと

IV 自然を生かし、環境と調和のとれた 美しいまち苫小牧 守ります！

＜温室効果ガス実質排出量ゼロを目指します＞

ゼロカーボンシティの実現に向けて「苫小牧市環境基本計画」を改定し、2030年温室効果ガス削減目標の達成に取り組んでまいります。

また、環境教育副読本にゼロカーボンに関する内容を加え、各学校での活用を促進するほか、取組を推進する行動にとまチョップポイントを付与するなど、市民や企業の意識醸成を図ってまいります。

再生可能エネルギーの導入に向けては、助成制度を拡充するとともに、景観保全の条例を制定し、景観との調和を図ってまいります。

さらに、苫小牧CCUS・ゼロカーボン推進協議会^{※4}の活動を通じて、官民一体でゼロカーボンを推進するとともに、企業間マッチングや情報提供などの支援を行い、新たな産業誘致や地元産業の振興に努めてまいります。

＜ごみの減量、リサイクルの推進、まちの環境美化を追求します＞

市民や企業と連携した食品ロス対策に取り組むとともに、給食残渣^さをバイオガス発電に活用するなど、温室効果ガス排出削減にも配慮しゼロごみのまちの実現を目指してまいります。

また、給水スポット整備によるマイボトル運動の展開や、ワンウェイ容器の利用抑制に向けた周知啓発を行い、プラスチックごみの削減を図るほか、「災害廃棄物処理計画」を策定し、災害廃棄物の適正かつ迅速な処理に努めてまいります。

さらに、沼ノ端クリーンセンターは再度、長寿命化を行い、ごみ焼却施設への投資を抑制してまいります。

＜クリーンでみどり豊かなまちをつくります＞

街路樹を適正に維持管理するとともに、市民植樹祭や町内会等で実施している花木や草花の植栽に対する支援を継続するほか、都市公園における公園灯のLED化など、ゼロカーボンに向けた取組を推進し、みどり豊かなまちを目指してまいります。

※4 ゼロカーボンシティ実現に向け、地元の産官学一体となった取り組みを推進している協議会のこと
CCUSは、Carbon dioxide Capture, Utilization and Storageの略で、分離・回収したCO₂を有効利用する技術のこと

また、市有林を適正に更新するとともに、民有林の整備を促すなど、二酸化炭素の吸収をはじめとした森林の持つ多面的機能を発揮させてまいります。

さらに、本市の生物多様性の方向性に基づき、苫小牧らしい地域戦略を策定するほか、アルテンにおいてワーケーションの拠点化を進めるなど、豊かな自然の魅力を発信してまいります。

＜市が率先して気候変動危機対策の強化を進めます＞

小中学校や公共施設への P P A 方式^{※5}による太陽光発電の導入を進めるとともに、沼ノ端クリーンセンターにおけるバイオマス発電の有効活用や、公用車への次世代自動車導入に取り組み、民間への波及を促進してまいります。

また、Z E H^{※6}の普及促進に向け、住宅補助を新設するとともに、公共工事においては、ゼロカーボンに資する内容を仕様に盛り込むなど、官民一体となりゼロカーボンの実現を目指してまいります。

＜自然環境の保全と活用、野生動物対策に取り組みます＞

北大研究林を活用した森林セラピーや自然観察会を実施し、市民の健康増進を図るとともに、樽前ガローヤトキサタマップ湿原地区は、保全を優先しつつ、有効な利活用を進めてまいります。

また、野生動物対策につきましては、エゾシカの捕獲数の拡大やジビエとしての活用を調査するとともに、ヒグマと人との接触を防ぐため、ドローン等による行動範囲の調査を行うなど、対策を強化してまいります。

※5 Power Purchase Agreement の略で、太陽光発電設備の所有、管理を行う事業者（PPA 事業者）が、施設所有者から提供された敷地や屋根などに設置した太陽光発電設備で発電し、その施設の電力使用者へ有償提供する契約方式のこと

※6 Net Zero Energy House の略で、省エネルギーと再生可能エネルギー等により、年間一次エネルギー消費量を実質ゼロ以下にする住宅のこと

V 心の通い合う、優しい音楽の流れる 暖かなまち苫小牧 愛します！

<男女平等参画都市宣言の理念を踏まえたまちづくりに取り組みます>

LGBTQ^{※7}やデートDVに関する出前講座、講演会を実施し、若年層への平等・人権教育を推進するほか、教職員を対象としたALLY^{※8}研修などにより、多様性社会の実現を目指してまいります。

また、配偶者暴力相談支援センターの窓口時間の延長や託児付きで相談できる環境を整備するほか、なでしこ就職応援事業に専門性を取り入れるなど、女性の活躍を推進してまいります。

さらに、外国人を雇用する企業への支援を行うとともに、多文化共生指針を策定し、働く外国人に選ばれるまちづくりに努めてまいります。

<まちの国際化を推進します>

市役所の総合窓口フロアに翻訳機を導入するなど、多言語に対応する体制を整備するとともに、多言語による行政・生活情報誌の作成や、スマートフォンアプリを活用した情報発信を行うなど、外国人にも優しいまちを目指してまいります。

また、小中学校において、ALT^{※9}を活用したイングリッシュカフェ^{※10}を実施するとともに、就学援助世帯に英検受験費用を補助するなど、身近に英語を学べる環境整備を進めてまいります。

<スポーツや文化芸術の振興を図ります>

総合体育館の整備計画の策定や科学センターの移転改修方針の決定など、老朽化した施設の対策を講じるとともに、近年のスケートボードの人気の高まりから、安全で充実した練習環境を整備してまいります。

また、美術博物館において、指定文化財であるアイヌ丸木舟や静川遺跡を活用した展示の充実を図るほか、特別展示開催時の開館時間を延長するなど、来館機会を創出し、身近に文化芸術に触れる環境を提供してまいります。

※7 Lesbian（女性同性愛者）、Gay（男性同性愛者）、Bisexual（両性愛者）、Transgender（性自認が出生時に割り当てられた性別とは異なる人）、Questioning（特定の枠に属さない人）の頭文字をとった言葉で、性的マイノリティの方を表す総称のこと

※8 性的マイノリティを理解し支援するという考え方やその考えを持つ人のこと

※9 Assistant Language Teacher の略で、外国語指導助手のこと

※10 ネイティブスピーカーと日本人が気軽に英会話を楽しめる場のこと

<子どもたちの学習環境を整えます>

「苫小牧市学校教育推進計画」を策定し、義務教育で目指す方向性を定めるとともに、1人1台のPC端末を活用してGIGAスクール構想の実現を目指すほか、小中学校において、金融教育の機会を提供するなど、社会で自立して生きる能力を養ってまいります。

また、課題となっている不登校の対策強化に取り組むほか、植苗小中学校の義務教育学校化など、学校規模適正化の現状と課題を踏まえ、学校規模や地域の実情に応じた望ましい教育環境を提供してまいります。

<誰もが学び、参加できる喜びが得られる事業を実施します>

北洋大学と協力し、英語講座など市民公開講座を開設するほか、長生大学と連携を図るなど、誰もが学べる環境づくりに取り組んでまいります。

また、音楽祭事業の実施や支援等を通じて、身近に音楽が流れるまちを実現してまいります。

さらに、性的少数者のカップルを公的に認めるパートナーシップ制度の導入や、ウポポイと連携し、アイヌ文化に触れる機会を創出するほか、「苫小牧市非核平和都市条例」の象徴として“平和の鐘”を市民文化ホール建設地内に設置し、条例の趣旨を広く普及するなど、他人を理解し合える優しい社会の形成に努めてまいります。

むすび

私は5期目の基本目標として「財政秩序を守りつつ、財政基盤の更なる強化を図り、20年先を見据えたまちづくりの実践にチャレンジ！」を掲げ、基本テーマを「～支えあい 助けあう ふくしのまちづくり～」と設定しました。3期目、4期目に続く、ふくしのまちづくりへの挑戦となりますが、公約実現のため、新たな時代に即した施策を展開し、市民との約束を果たしてまいります。

人口減少と少子高齢化の進行に加え、新型コロナウイルス感染症の世界的大流行や、大雨や地震などによる自然災害、更にはロシアによるウクライナ侵攻など、私たちを取り巻く環境は目まぐるしく変化しており、難しい市政運営が求められます。

与えられた4年間、市民のため、そして市政発展のために、市民の皆様とこのまちの将来像を共有し、未来につながるまちづくりを目指してチャレンジを続けてまいります。